

60年以上前から世界一  
や世界初を認定してきました  
ギネス世界記録。その新た  
たな記録に、朝中高特派  
員の五十嵐晏さん(中ひ  
が通う神奈川県厚木市立  
小鮎中学校PTAの主催  
で、生徒や先生らが挑戦  
ました。挑戦した五十嵐  
さんの報告です。



いがらしあん  
**五十嵐晏さん**  
(神奈川・小鮎中2年)



ギネス世界記録に挑戦する小鮎中学校の生徒＝提供写真以外は  
いずれも8月9日、神奈川県東大井



# 中学生

# ギネス世界記録® に挑戦

時間以内に100点のコースを  
プレイボードで  
何人がリレーできるか



ギネス世界記録の認定証を持つ小鮎中の生徒とマクミラン舞さん（左端）



ギネス世界記録達成をみんなで祝いました

応援の力が勇気づけてくれた

プレイブボードは2枚の板にタイヤがついた乗り物で、体重移動で板を動かして進みます。難しいのはバランスを取ること。重心を常に体の中心に保つ必要があります。私はほぼ未経験なので、7月の初めの練習ではまったく乗れませんでした。一度肩から転び、その恐怖心がなかなかぬぐえませんでした。

録達成の標準が「70人」と設定されました。そして本番当日の8月29日。直前練習では、応援してくれるたくさんの人々を見て、緊張が高まりました。集中しないとフォームが乱れるので、「100点を走り切り、次の走者にバトンをつなげよう」と意識しました。

定された記録は94人。目標を大幅に上回る数で、本当に驚きました。挑戦した87人の生徒全員がその数に入っていたのがうれしかったです。

今回の挑戦で特に印象に残ったのは、応援の持つ力。練習中も本番も参加者や保護者、地域の人方が一体となって応援してくれて、感動しました。

挑戦したのは一時間以内に100点のコースをブレイブボードで何人がリレーできるか。

署名、手が震えた：

ルしても、喜ぶより緊張していました。練習の成果が出て転ばずに走り終え、すぐには挑戦したあかしとなる署名をしました。達成感と安心感と不安な気持ちが入り交じり、手が震えました。

正式にギネス世界記録となるには挑戦後、公式認定員による審査が必要です。絶対に達成できた自信がありました。